

## お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

### 【研究課題名】

脊柱変形手術における 2017 年度の合併症調査 - 日本側彎症学会による報告

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 整形外科

【研究責任者】 森野忠夫（整形外科 講師）

【研究代表者】 自治医科大学整形外科 講師 菅原 亮

### 【研究の目的】

近年手術手技の向上および手術器械の発達により脊柱変形の手術は増加傾向にあります。また日本では未曾有の高齢化社会を迎えており、合併症を有する高齢者の手術も増えています。このような状況を踏まえ、継続的なデータの蓄積及び開示を目的とし、日本側彎症学会は 2012 年に合併症調査委員会を立ち上げました。これまでに学会主導で 2012 年度、2014 年度に調査を行い、その結果を報告してきています。本研究の目的は、その継続的な調査として、2017 年度の合併症調査を行い、その動向を探ることにあります。手術の合併症に関するアンケート調査を継続的に全国規模で行っており、愛媛大学整形外科もこの研究に参加しています。

### 【研究の方法】

2017 年 1 月から同年 12 月の間に脊柱変形に対する手術を行った症例を対象とします。期間内に手術を行った症例数と合併症が起こった割合と内容を報告します。

利用するカルテ情報は、脊柱変形の種類ごと（特発性側弯症、先天性側弯症、神経筋原性側弯症、その他の側弯症、3 度以上の迂り症、成人を除く後弯症、後弯も含む成人脊柱変形）に、合併症（死亡、視力障害、運動神経障害・感覚神経

障害（術後血腫によるものを含む）、早期感染（術後 1 か月以内）、遅発性感染（術後 1 か月以降）、術中大量出血（3,000ml 以上）、術後血腫（有症状で除去術を行ったもの）、術後肺炎、術後心不全、術後 DVT/PE（Deep Venous Thrombosis / Pulmonary Thromboembolism, 深部静脈血栓症および肺血栓塞栓症）、消化管穿孔、instrumentation failure）を起こした症例数のみを記載します。

#### 【共同研究について】

この研究は、他の病院や研究施設と共同で行っています。

対象となる患者さんのデータは、匿名化されて、アンケートフォームに入力され、電子ファイルとして暗号化した後に e-mail で自治医科大学に送られます。多くの情報を解析することで、医学・医療の発展に役立つ成果が得られることが期待されます。

#### 【個人情報の取り扱い】

この研究で得られた結果は、これらの治療法の安全性を確認する資料として使用し、専門の学会や学術雑誌に発表されることがありますが、対象者のプライバシーは十分に尊重されます。アンケートフォームから入力され、学会事務局に送信されるデータは、個人情報を含んでいません。送信されたデータは、学会事務局の施錠可能な部屋に厳重に管理されます。

< 試料・情報の管理責任者 > 自治医科大学整形外科 講師 菅原 亮

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

#### 【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院整形外科 森野忠夫  
791-0295 愛媛県東温市志津川  
Tel: 089-960-5343